

震災時等における被災地でのガソリン等の 運搬、貯蔵及び取扱い上の留意事項

【ガソリン等の火災危険性を踏まえた貯蔵・取扱い時の留意事項】

《ガソリンの特性》

- ・ 引火点は -40°C 程度と低く、極めて引火しやすい。
- ・ ガソリン蒸気は空気より約3～4倍重いので、低所に滞留しやすい。
- ・ 電気の不良導体であるため、流動等の際に静電気を発生しやすい。



- ・ **ガソリンを取り扱っている周辺で火気や火花を発生する機械器具等を用いしないでください。**
ガソリンを取り扱っている場所から1m離れた場所に置かれた洗濯機で火災に至った事例や、火気や火花がなくても人体に蓄積された静電気で火災に至った事例が報告されており、ガソリンを取り扱う場合は細心の注意を払わないと容易に火災に至る危険性があります。
- ・ **静電気による着火を防止するためには、金属製容器で貯蔵するとともに、地面に直接置くなど静電気の蓄積を防ぐ必要があるほか、移し替えは流動時の静電気の蓄積を防ぐため、ガソリンに適用した配管で行う必要があります。**
- ・ **ガソリン容器からガソリン蒸気が流出しないように、容器は密栓するとともに、ガソリンの貯蔵や取扱いを行う場所は火気や高温部から離れた直射日光の当たらない通風、換気の良い場所としてください。**
特に夏期においてはガソリン温度が上がってガソリン蒸気圧が高くなる可能性があることに留意しましょう。
- ・ **取扱いの際には、開口前のエア抜き操作等、取扱説明書等に書かれた容器の操作方法に従い、こぼれ・あふれ等がないよう細心の注意を払ってください。**
万一流出させてしまった場合には少量であっても回収・除去を行うとともに周囲の火気使用禁止や立入りの制限等が必要です。必要に応じて消火器を準備しておきましょう。また、衣服や身体に付着した場合は、直ちに衣服を脱いで可能であれば大量の水と石けんで洗い流しましょう。
- ・ **ガソリン使用機器の取扱説明書等に記載された安全上の留意事項を厳守し、特にエンジン稼働中の給油は絶対に行わないようにしましょう。**



ガソリンの貯蔵に適した容器の例
(金属製容器であることが必要)



ガソリンの貯蔵に適さない容器の例
(樹脂製容器は火災危険性が高い)

《灯油・軽油の特性》

- ・ 引火点は40℃～45℃程度であり、引火しやすい。
- ・ 灯油や軽油の蒸気は空気より約4～5倍重いので、低所に滞留しやすい。
- ・ 流動等の際に静電気を発生しやすい。



- 灯油や軽油を取り扱っている周辺で火気や火花を発生する機械器具等を用い
ないでください。
灯油や軽油から発生する可燃性蒸気の量はガソリンより少ないため、ガソリンと
比べれば火災危険性は低いものの灯油や軽油の近くに火気等があれば火災に至る
危険性があることには変わりなく、灯油や軽油を取り扱う場合は、ガソリンと同様
に細心の注意を払う必要があります。
- 常温において、灯油用のポリエチレンタンクや樹脂製の灯油用給油ポンプ
の使用は問題ありませんが、液温が高くなる（40℃以上）環境下で用いる
場合は、灯油や軽油に蓄積された静電気で火災に至る危険性があることに留
意する必要があります。
ガソリンほどではありませんが、灯油や軽油も流動等の際に静電気を発生しやす
い性質があります。また、灯油や軽油も蒸気と空気の混合率が一定範囲内（1.0vol %
～6.0vol %と広範囲）で燃えます。
- 灯油や軽油の容器から灯油や軽油の蒸気が流出しないように、容器は密栓
するとともに、灯油や軽油の貯蔵や取扱いを行う場所は通風、換気を良くし
ましょう。